

## 井戸尻を元気に！ 地域を元気に！ 事業

### 取組に至る背景・事業の目的

昭和30年代から縄文時代遺跡の発掘が本格化したこの地域は、当初から地元民が在野の考古学者の指導や高校生の協力を得て、遺跡保存及び維持に関わってきた。この誇らしい歴史を継承し、井戸尻地域を盛り上げていきたいという有志が集まり、「井戸尻応援団」を結成した。

行政とは異なった住民の柔軟な視点で井戸尻の魅力を様々なイベントとして発信し、考古学に興味のない人にも気軽に参加できる機会を設け井戸尻のファンを増やすきっかけとしたい。

同時にそのような活動を通じ、地元住民が井戸尻を地域の宝として再認識するきっかけになる事も期待した。レンコン掘りの様な過酷な作業をむしろ楽しいイベントとして、蓮の花の活性化を目指した。

### 事業内容

- 井戸尻の歴史や特性の学習・発信
  - ・講演会「井戸尻発掘の思い出を語る会」(47名参加)
  - ・講演会「井戸尻のつぼ」(72名参加)
  - ・信濃境駅写真のお披露目会(約30名参加)
- 体験型イベント
  - ・レンコン掘り作業(延べ50名参加)
  - ・縄文土器づくり体験&野焼き(延べ25名参加)
  - ・復元家屋での縄文炉辺談話(延べ45名参加)
- 信濃境駅・写真の交換
- 蓮の葉茶の商品化の研究
  - ・試作品を100個制作。イベントで配布し、意見を聴取



【レンコン掘りの様子】

### 事業効果

- レンコン掘り、土器作り、復元家屋での縄文炉辺談話などに加え、講演会でも今までになかった視点での魅力を伝えることができた。講演会に参加した地元住民から、「知らない事を学べる良い機会を作ってもらった」という感想を多くいただき、地域の魅力の再認識につながった。
- レンコンの株を掘る整備を初めて2年目になるが、昨年掘った場所は大きく元気な蓮の花が咲いた。続けていくことで蓮田の再生に期待が持てる。
- それぞれのイベントには、小学生から高校生・高齢者と年齢層も幅広く、地域住民だけでなく都市部からも多くの参加者があった。それぞれ井戸尻の魅力を満喫してもらい、井戸尻のファンを増やすことができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

企画したイベントの数が多く、常に準備に追われていた一年だったが、イベント参加者からの評価もそれぞれかなり高かったため、企画自体は魅力的だと思われる。しかし、レンコン掘り、土器作り&野焼きに関しては、思ったように参加者を集めることができなかった。チラシ配布が主な広報手段となったが、情報を欲しい人にとってどのように届けるかが今後の課題である。

次年度は、レンコン掘りの1回を、富士見町主催の「おひさんぽ」と連携して開催することになった。チラシ作り、広報なども協力してできるので期待が持てる。

また、今年度は支援金を受けながらの開催だったので資金が確保できたが、今後はイベント参加者からお金を徴収して運営費に当て、持続的な活動を目指す必要がある。

#### 【選定のポイント】

地域住民がレンコン掘りや土器づくり等に携わり、井戸尻地域に対する愛着を醸成することで、住民自らが井戸尻のファンとして情報発信や普及活動を行うことが期待される。

団体名	井戸尻応援団(富士見町)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-5553-2376	事業費	573,800円
ホームページ	<a href="http://idojiri.fujimi-kogen.com">http://idojiri.fujimi-kogen.com</a>	支援金額	459,000円
メールアドレス	chiyoko@chiyokoangel.com		

## ユニバーサルなまち・長野でおもてなし～皆で幸せになるために～

### 取組に至る背景・事業の目的

障がいがある方も健常者同様に旅や観光をアクティブに楽しめる「ユニバーサル観光地ながの」のために障がい者向けの体験会を開催し、この取組を更に広げて、シニア世代や地域住民とともに各観光地の地域づくりに結びつける。

### 事業内容

現在長野県が進めている障がいの有無に関係なく旅や観光を楽しむ「ユニバーサルツーリズム」の動きに伴い、誰もが楽しめる「ユニバーサル観光地ながの」のために障がい者向けのアクティビティ定着を目指して、アウトドア用車椅子の体験会の実施。それに伴い、体験会でのシニアボランティアを育てるための「信州あいサポーター研修」を実施。

冬はデュアルスキー体験会を実施。

\*善光寺びんずる市・飯綱霊仙寺湖畔・戸隠奥社・白馬五竜でのアウトドア用車イス体験会実施

\*信州あいサポーター研修の実施



【戸隠神社での活動】

### 事業効果

- ① 「ユニバーサルツーリズム」を、各地でアウトドア用車椅子体験会・デュアルスキー体験会を実施することで広く知ってもらうことが出来た。
- ② 「あいサポーター研修」を実施し、特にシニア世代の方々やガイド協会の方々に興味を持って参加を頂き、その後のアウトドア用車イス体験会へと結びつけることが出来た。人生100年時代を迎え第二の人生をどのように充実させるか、人生二毛作にボランティアをということをあらためて提言出来たと考える。
- ③ 障がい者にどのように接したらよいかを「あいサポーター研修」で知っていただくことで、地域に観光で訪れた方々へのおもてなしに活かしてもらう道筋を作れた。
- ④ 「あいサポーター研修」の中で「障害者差別解消法」を取り上げることで、障がいの有無に関係なく共に生きる社会の定着という考えを広く知ってもらうことが出来た。研修を受けた方々の実行力に期待したい。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

「ユニバーサルツーリズム」を観光の重要な要素のひとつとして拡大定着させていくためには、「あいサポーター研修」が有効な手段のひとつとして考えられるので、引き続き体験会と組み合わせて実施し、人材育成に取り組むたい。

シニア大学で活動の取り組みを報告させて頂いたことから、シニア世代へ積極的なボランティア参加を促していかなければと考えている。地域づくりにはその地域の方々のおもてなしが不可欠であり、長野が国際観光地としてさらなる魅力あるまちとなるためには、よりユニバーサルな街づくりが求められているし、避けては通れない事柄である。

誰もが気持ちよく訪れることが出来る観光都市を目指すために、その一助となるよう引き続き意識の啓発と体験会などの活動に取り組むたい。

#### 【選定のポイント】

障がいの有無に関係なく、誰もが楽しめる「ユニバーサル観光地ながの」を目指し、障がいがある方向けのアクティビティの体験会を実施。それに伴い、ボランティアを育てるためのサポーター研修を実施した。サポーター研修ではおもてなしも実践しシニアボランティアの育成と、実際にアウトドア用車椅子やデュアルスキーの体験をしていただいた方の声を聞くことができ、「ユニバーサルツーリズム」について広く知ってもらうことができた。

団体名	信州ユニバーサルサポーターズ (長野市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	長野市上松 2-6-13 026-235-2708	事業費	1,835,943円
		支援金額	1,432,000円

## 北原区くるみによる元気な地域づくり事業

### 取組に至る背景・事業の目的

平成 20 年度にオーナー制度を活用してくるみの苗を植え、以来、委員会をはじめ地域住民により育成されてきた結果、平成 28 年に一部収穫できるまで成長した。

そこで、収穫祭を開催してオーナーと交流するほか、収穫から販売までのビジネス過程において、不足している備品やノウハウを得て、くるみのブランド化、試行販売を行い、コミュニティビジネスとして確立させ、区費負担の軽減を図る。

### 事業内容

- 収穫したくるみを洗浄する機械の購入、くるみを乾燥させる棚の設置等
- オーナーがくるみを収穫するシステム（ルール）の構築、オーナー表示用のベストの作成、収穫祭の開催
- マーケティングの専門家を交えた住民主体による統一ブランド・地域販売運営組織「きたはらスタイル」を立上げ、道の駅で商品名「村ぐるみ」として試行販売



【ブランド化・試行販売した「村ぐるみ」】

### 事業効果

- ・収穫祭は、オーナー20名中8名、付添5名の計13名が参加
- ・くるみの収穫のほか、区民15名と交流
- ・平成29年度は、収穫した4,000個のくるみのうち約1,000個が販売可能で、来年度以降収穫量も増えることから、継続的に収益が得られる見込みが立った。
- ・収穫祭のほか、年間を通して都市のオーナーと交流することで、オーナーに北原区が「第2のふるさと」という思いが醸成され今後の移住への足掛かりや関係人口の創出につながった。



【地域運営組織「きたはらスタイル」】

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

くるみのオーナーが今後くるみの木の世話や収穫を行うため北原区を訪れる回数を増やすことにより、交流からさらに移住・定住への促進を図りたい。

また、販売可能なくるみの量を増やし道の駅等に出荷することにより、コミュニティビジネスを行い、その収益を活用して区民の負担軽減や地域活性化に役立てていきたい。

#### 【選定のポイント】

平成 20 年から育て続けたくるみを使ってオーナー制度や住民主体で運営組織を立ち上げて商品のブランド化・試行販売を行った点が、コミュニティビジネスや関係人口の創出モデルとして高く評価できる。

団体名	北原区ふるさと暮らし支援委員会 (飯山市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	事務局 0269-65-4049	事業費	757千円
メールアドレス	mizuho_kitahara@yahoo.co.jp	支援金額	592千円